

第 21 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムアンケート結果

日時：2023 年 10 月 13 日（土） 10:00～16:45

場所：東京大学弥生講堂一条ホール・ オンライン Zoom ウェビナー

内容：ポスター参照（別添）

参加者：現地参加 91 人、オンライン参加 130 人、合計 221 人

アンケート回答者数：64 人

1) 属性

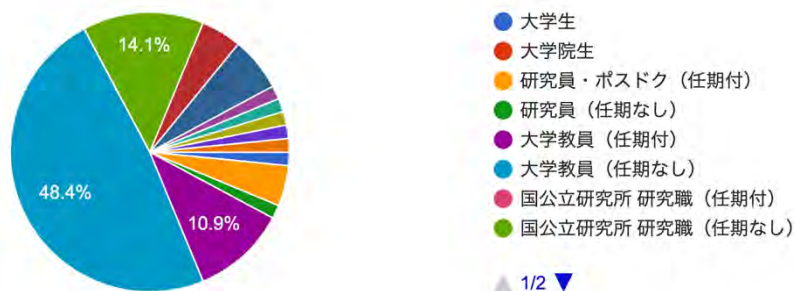
回答者の身分は、大学教員（任期なし）が最も多く 48.4%であった。ついで国立研究所 研究職（任期なし）が 14.1%、大学教員（任期付）が 10.9%、会社員が 6.3%、研究員・ポスドク（任期付き）および非雇用定年退職後が 4.7%、そのほかは 1 人であった。

年齢は、50代が最も多く 39.1%、ついで 40代が 25%、60代が 21.9%、30代が 7.8%、70歳以上が 4.7%、20代は 1 人（1.6%）であった。

性別は、女性が 79.7%、男性 20.3%、その他および非回答は 0 人であった。

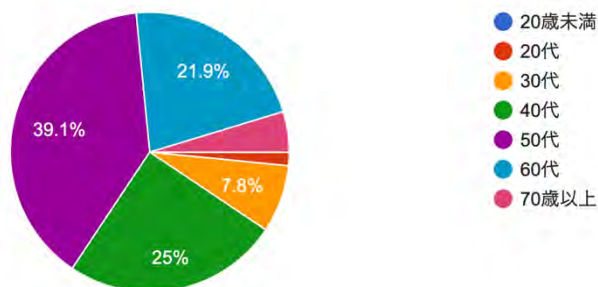
あなたについて

64 件の回答



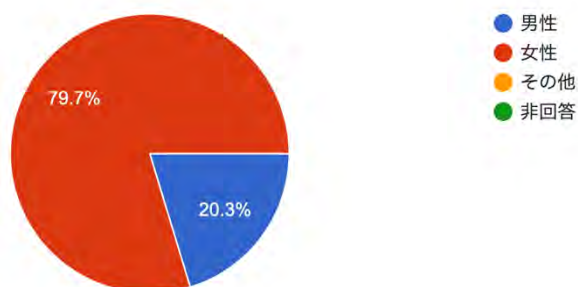
年齢

64 件の回答



性別

64 件の回答

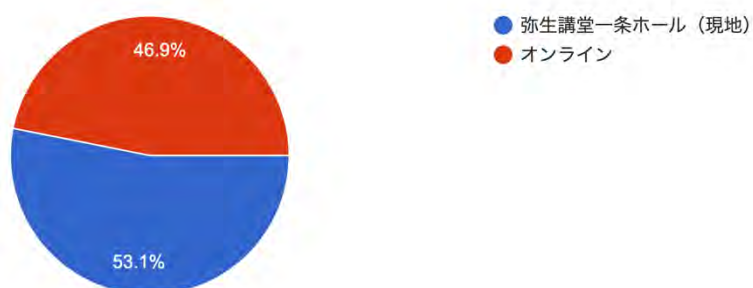


2) 参加形態

弥生講堂一条ホール（現地）での参加者 41.2%、オンライン参加者 58.8%に比べ、アンケートの回答者の割合は、現地 53.1%、オンライン 46.9%と、現地参加者のアンケート回答率がやや高かった。

参加形態

64 件の回答

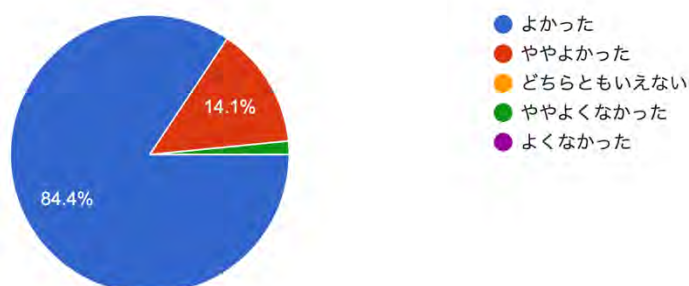


3) シンポジウム全体について

「よかった」が 84.4%、「ややよかった」は 14.1%、両者をあわせると 98.5%となり、良い評価であった。「ややよくなかった」との回答は 1 人（1.6%）であった。

シンポジウムはいかがでしたか

64 件の回答

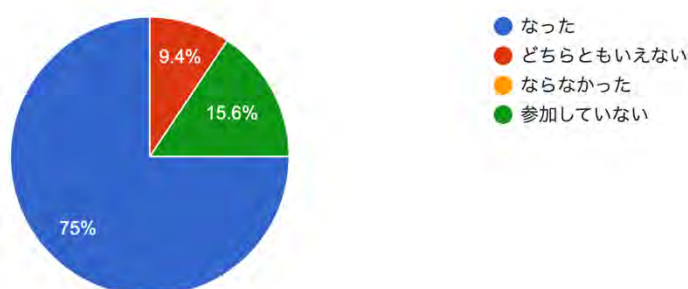


4) 午前の部について

他学会の事例を知る、今後の連携を考える機会に「なった」と回答した人は75%、「どちらともいえない」が9.4%、「参加していない」が15.8%であった。参加した人のみでみると、88.9%が「なった」と回答しており、概ね良い評価であった。

午前の部について、他学会の事例を知る、今後の連携を考える機会になりましたか？

64件の回答

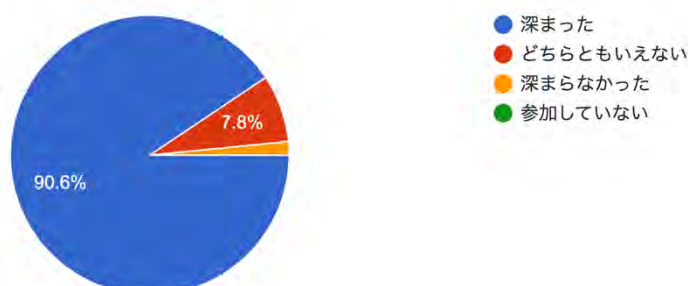


5) 午後の部について

フィールドワーク分野の課題や魅力について「理解が深まった」と回答した人は90.6%、「どちらともいえない」が7.8%、「深まらなかった」が1人で1.6%であった。概ねよい評価であった。

午後の部について、フィールドワーク分野の課題や魅力について理解が深まりましたか？

64件の回答



6) 午前・午後の部で一番関心の高かった内容について

関心が高かった順に、午後の部：講演3「米国における女性台頭の半世紀」(35.5%)、午後の部：生態学会のアンケート結果(14.5%)、午前の部：日本生理学会の取り組み紹介(9.7%)であった。

7) 感想・意見など(自由記述)

42件(65.6%)の意見が寄せられた。

全体的な感想

- ・予想以上に大変楽しかった。科学研究の内容も、科学者の生き方としても、その社会人としての誇りにについても。
- ・初めて参加した。自身の経験してきた局面を若い研究者もしている事に共感した

・はじめて参加しましたが、大変よかったです。他学会の取り組みも大変参考になりましたし、午後のお話も普段聞けないお話でとても興味深かったです。ただ、最後の活動報告？についてはかなり時間が押していたので、時間は厳守していただきたいです。

- ・参加者の方と直接情報交換できたことはとてもよかったです。
- ・今回のご講演は、どれも非常に具体的でわかりやすく、団体としての取り組みも参考になりましたし、個人的な育児との両立やキャリアについての心のくさびがとれたような感覚を頂きました。
- ・実体験に基づく話が多く非常に良かった。
- ・色々勉強になりました。また、大学や学会で様々な問題がありますが、解決に向けて取り組んだり、高い意識を持って考えたりされている方がたくさんいらっしゃるという事実で、少し元気が出ました。
- ・後進の方々のために努力されている姿がわかり感銘を受けた。
- ・いろいろな方との交流もでき、有意義な機会でした。幹事学会の皆様、お疲れ様でした。
- ・所属する学会が男女共同参画への意識に乏しいため、積極的でない学会への呼びかけも積極的に行って欲しい。シンポジウムへの参加・発表をすることで、所属分野の足りなさを考えるきっかけになると思う。

午前の部：学会

- ・好事例の情報共有と周知を是非お願いいたします。
- ・他の学会の取り組みがわかってよかったです。
- ・学会ごとの課題の違いを聞きたかったのですが、一部しか参加できず残念でした。
- ・他の学会での取り組みについて大変参考になりました。いずれもスタンダードになるとよいと思いました。
- ・今回、加盟学会の取組について紹介して下さったことは、自分たちの学会の活動を見直す上で大変役に立ちました。その他、他の組織の取り組み例も知ることができ、自分の組織（大学）の構成員や執行部に是非共有したい内容と感じました。
- ・植物学会の学会本部のバックアップについてさらに深掘りし、他の学協会に展開することができないのか、というところを検討するとよいのではないかと思います。
- ・午前の部後半から参加させていただきましたが、日本生理学会の取組が興味深かったです。学会参加の際の数々の支援は子供を持つ会員が少しでも参加しやすいように、との配慮が感じられ、学会参加への物理的・精神的ハードルが低くなるように思いました。

午後の部：フィールドワークに関するテーマについて

- ・いつものシンポジウムと異なるフレーバーで、素晴らしく、たいへん面白かったです。お礼申し上げます。
- ・フィールドワークの事例や実際に育児をしながらの研究の進め方やその際に生じる問題と対応など参考になる点が多かった。男女格差はまだ根深く他国からも遅れている現状だがロールモデルが減らないように続けることが次の道を開くと信じたい
- ・とても前向きな内容で、参加者としても励まされました。

- ・フィールドワークならではの困難さは想像はしていたが、それ以上の状況であることをよく理解できた。
- ・フィールドワーク分野に焦点が当てられていましたが、フィールド分野に限らず問題となる点は同じで問題解決のきっかけになる議論がなされていて大変勉強になりました。
- ・ラボ系、フィールド系に関わらず、子育てと研究の両立には困難が大きく、しかし、皆さん、色々工夫しながら、仕事は辞めないで頑張っている姿に、エネルギーをもらい、また、みんなで支援する環境ができれば良いな、あるいはその支援者の一員になりたいと思いました。
- ・午後の部の3つの講演はどれも興味深く、弊所の男女共同参画推進支援を考えるにあたって大変勉強になりました。
- ・おもしろかった。後半も、知らない分野の研究者の生活ぶりを身近に感じられて興味深かった。
- ・午後の部のフィールドワーク分野に関して取り上げていただきありがとうございます。私などは、原子炉を利用した分析が専門だったこともあり、数日、原子炉のある施設に出張して実験をしていました。やはり、家を離れなければならないので、大変でした。子供が生まれてからは、そのような実験何できなくなり、研究成果もなかなか、出なかったです。福島事故後は子供が大きくなり、フィールドワークもできるようになりました。皆さん、苦勞なさっていると思います。パネリストがおっしゃっていましたが、研究以外の子育て仲間何随分助けてくれました。仕事だけじゃないコミュニティを普段から作ることがたいせつだとも思います。そのためには、ゆとりを持った生活を心がけたいですね。
- ・生態学会のアンケートで、ハラスメント被害について聞きしている人が50%前後いたのは大きな問題と思う。フィールドに出してしまうと、隔離された空間のため、被害を受けても本人だけでなく周りにも言い出しにくい。特に、セクシャルハラスメントについては、被害者の受け取り方によっても境界線が異なるため、さらにアンケート等でお互いの意識の違いについて理解する場が必要だと感じた。
- ・生態学会の分析結果が明解でよかったです。同じようなアンケート分析をしたいと思いました。午後の講演もそれぞれ参考になりました。
- ・自分の知らない分野の悩み事が良く分かりました、
- ・初めて on site で参加し、自分が現役時代と比べて、解決できた問題とまだまだな問題があることを知った。
- ・いつものシンポジウムと異なるフレイバーで、素晴らしく、たいへん面白かったです。お礼申し上げます。
- ・研究員の先生が、ご自身の私生活も交えて、キャリアアップとライフイベントの両立についてお話くださったのがとてもよかったです。
- ・壇上にあがられた方達は研究者として生き残っておられる方々ですが、どの様な困難を誰のサポートで乗り切ったのかを伺うと個人的な人間関係によるところが大きい様に感じます。どの様な状況に生まれ落ちても同様のサポートが受けられる体制・環境整備がなされれば、もっと女性研究者は増えるのではないかと思います。今回、時代の変化による恩恵を若

い人達は受けていると嬉しく感じました。男性達の女性観も変化し、夫や姑の関わり方も変化しています。時代の流れに沿って女性研究者も増えてゆく様に感じました。

- ・私の所属している学会や大学においてもフィールド調査を行っている人がいるので、今回挙げられた課題について共有していきたいと思った。

- ・午後のフィールドワークの講演はどれもとても魅力的で、高校生にも聞いてほしいと思った。午前の部もどれも非常に現状がわかって有益だった。

- ・午後からの参加でしたが、自身がフィールドワークを行う研究者ということもあり、ひとつひとつの事例をとっても興味深く、またヒントをいただきながら拝聴いたしました。特に男性研究者の日頃のご苦労・工夫、ご家族との話し合いなどはとても参考になりました。「男性の経験を女性が否定する」はよく目にすることですが、自戒も含め、お互いの生きやすさを探っていくことが必要だと強く感じました。所属学会でも男性研究者の育児体験についてさっそく会を企画したいと話合っております。

- ・先輩の事情を伝えることが重要に思います。特にこれからの方へは夢あるロールモデルを伝えたいと思っています。

- ・関心が高かった項目に、午前の部の植物学会の取り組みを選択しましたが、同様にインパクトがあった講演は「米国における女性科学者台頭の半世紀」でした。

内容についての意見

- ・もう少し参加者共通になるような内容で、提言などに結びつく内容の方が文科省関係者も参加しているので望ましい。

- ・今回のシンポジウムは前向きな具体的提案に話が向かわず、単なる愚痴に近いものや非現実的な思い付きが多く、正直、昨年に比べて参考になる事項が少なかったように思います。企画の問題なのか、講演者の問題なのかは分かりません。

運営方法についての意見

- ・準備運営で大変でしょうが、今後もハイブリッド開催をお願いします。

- ・当初予定よりも休憩時間を長めに取られたが、その分終了時間も遅くなりました。遠方から参加している方もいるので、終了時間が遅くなりそうときはアナウンスがあったら良かったと思う。シンポジウム自体は良かったです。でも懇親会の参加時の託児や同行するための旅費補助までいるのかなあ、と思いました。

- ・自身も子育てしながら海外でのフィールドワークにもとづく研究を継続しているので、シンポジウムの内容はとても満足度の高いものだった。講演者の話題にもあったが、今回のシンポジウムのポスターセッションもオンライン参加者が閲覧できるようにすべきではないかと思う。会議に参加できない子育て中の研究者も少なくないからだ。また、それとも関連するが、10月中の週末にこのシンポジウムを開催することとオーディエンス層の実情を今一度よく考えていただければと思う。子育て中の研究者にとって週末は家族と過ごす貴重な時間である。運動会や文化的イベントなどが目白押しこの時期に、丸一日を「男女共同参画」を謳う会議にあてるというのは、趣旨に逆行していると感じる。登壇者のお子さんが運動会

だという話題もあったが、そちらを休んで来られたのであろうか。このような状況を改善することを、もっと積極的に考えていただければと思います。

8) 今後のシンポジウムで取り上げてほしいテーマ（自由記述）

27件（42.2%）の意見が寄せられた。

各学会での取り組みについて

- ・各学会での、委員会/WGの広報・周知活動について知りたいです。
- ・取組例とその結果、どのように変容していったのか、や効果に関する情報が知りたいと思います。
- ・理事会の意識改革についての良好事例の共有
- ・これまでにシンポジウムに参加・発表した学会（分野）と取り組みの低い学会（分野）。海外と日本の現状の比較。

ワークライフバランス

- ・結婚せずに子育てして研究を続ける方法
- ・更年期障害。今は少数の女性、それも個人差があるのでつらい人が耐える状況だが、辛いときは辛いと声を発することができる環境にしていく必要があるとおもう。そして、介護。親だけでなく障害を持つお子さんの親がこぼれ落ちていないかと思っています。
- ・介護、終活
- ・高齢の親との付き合い方、介護の実態、介護離職対策
- ・多様な分野の方の研究とワークライフバランスへの取組み対応チャレンジなど聞きたい

無意識のバイアス・公正公平な評価など

- ・無意識のバイアスの講習会
- ・日本の壁はアンコンシャスバイアスにあると言うより意図的に繰り返される派閥的排他主義、問題に対する忌避行動等によるところが大きく、それが日本国内における人材の多様性消失、様々なハラスメントや科学技術の凋落にも繋がってきました。それを崩し真の多様性を確保する為の政策提言が必要です。その際、制度設計のあり方まで踏み込む必要があります。そこを取りあげ深掘りし纏めたものが次の提言になると思います。
- ・研究所を横断するハラスメントへの対応について
- ・公正公平な評価（機関/個人/助成、事業/業績/採用/昇進）
- ・研究者の雇用に関して、一次元的な評価基準の見直しや公平な評価とは何かについて、取り上げて頂けると嬉しいです。一度研究の場（大学や研究所）から離れても復帰できるように、またセカンド・キャリアを考える上でも、多様な価値基準による公平な評価がなされなければならないと思うからです。

若手の問題

・若手にしても、社会人から博士に入ったりして年齢的には上でも、研究者はいます。非正規雇用の場合、まだ出産ができにくい状況です。雇用と関わりなく産休・育休が取れる方策があれば、研究者でも出産、2人目など検討されるのではないのでしょうか。

- ・博士の企業への就職について
- ・医学系における、非医師研究者の働き方や、キャリア形成についてなど、聞いてみたいと思います。

男女共同参画に関する政策について

- ・様々な政策とその実効性（実際に活用されているか？）
- ・夫婦帯同などの雇用システムを可能にするための「制度提案」を行政に働きかけるための活動を考えていただければありがたいです。大事なのは新しい制度作り（および、その前にそれを可能にする意思決定層の意識改革を促すこと）かと、思います。
- ・日本の政策やこれまでの学協会での男女共同参画の活動をレビューするような研究をしている方がいらっしゃれば、聞いてみたいと思いました。
- ・科学技術振興や教育に関する政策について。男女共同参画が大きく進展しない要因は、元を辿ればこれではないかと思います。

その他

- ・予想以上に、若い方々の問題意識が表現されていて、よかった。これからも今回のように、古くて新しい問題と、新しい問題の両面から検討できる場であってほしい、と思っております。
- ・その学会の特色を生かすものであれば、何でも結構です。
- ・今回フィールドワーク研究者が研究の魅力を語ってほしい。そして、その実現のためにライフイベントや家族の問題をどのようにやりくりしているのかという話題提供を、他の分野の研究者にもしてほしい。
- ・生態学会様のアンケートにもありましたが、若手・女性等研究者に対する配慮が必要でも「どう配慮しているのかわからない」という意見がよく聞かれます。若手・女性が実際にどのような配慮を臨むのか、理解することができればと思っております。
- ・参加者の学びにつながる内容、単なる愚痴に終わらせない企画
- ・特になし